

「書の作品展を終えて」

9月3日(水)～9月8日(月)まで、弘前れんが倉庫美術館2階ライブラリーで、千年園さんと合同で書の作品展を開催しました。

今年度、青森県教育委員会の特別支援学校における「好き」を見つける学びの充実事業を活用し実施したものです。

本作品展は、以下の目的を掲げ、計画を進めてまいりました。

1 自己肯定感の育成と表現力の向上

子どもたちにとって、自己の内面を表現する手段を多様にもつことは、社会で豊かに生きていく上で極めて重要です。書道という視覚的な表現活動を通して、自分の思いや考えを形にする喜びを知り、作品が他者に認められる体験を通じて、自己肯定感を育むことを目指しました。

2 地域社会との交流と共生社会の実現

本校の子どもたちの活動を地域の方々に直接見ていただくことで、学校への理解を深め、作品を通じた交流が、共生社会の実現に向けた小さな一歩となることを期待いたしました。

作品展当日、会場は子どもたちや千年園さんの方々の瑞々しい感性が光る作品で彩られました。自由な発想による幅広い表現が並び、見る者を惹きつけました。どの作品にも、作者の伝えたいという熱い思いが込められているのが感じられました。

ご来場いただいた皆様からは、多くの温かい感想を頂戴いたしました。アンケートには、次のような声が寄せられました。

- ・ダイナミックな作品から繊細な感情が伝わるものまでさまざま良かった。ずっと見ていられます。
- ・皆さんの字に思いっきりさが表現されていて、観ていて、楽しくなる作品ばかりでした。
- ・子どもたちの世界が広がる、社会との接点が増える、とても良い試みだと思います。
- ・一人一人の思いを感じられる空間がとても良かったです。
- ・このような作品展は、生徒さんたちや利用者の皆さんにとっても、とても良い機会であり、チャレンジすることで自身にもつながると思います。是非次回も開催していただきたいです。
- ・すごく素敵です。みんなの好きな言葉が笑ってる。

これらの温かいお言葉は、子どもたち、そして教職員にとって、何よりの励みとなります。

今回の作品展を通じて、子どもたちは、自らの表現が社会に認められる喜び、そして自信をもつことの大切さを学びました。このような経験は、子どもたちの自己肯定感を育み、今後の学習活動や社会生活において、きっと大きな糧となることでしょう。

温かいご支援とご協力を賜りましたすべての皆様、ご来場いただきました皆様に重ねて深く御礼申し上げます。ありがとうございました。

